

## 2. 事業の報告

### 計画した事業

- (A) 納豆菌を付着した竹炭による水質浄化の簡素化を目指し、スポンジなどを混ぜて用いる方法での実験範囲の拡大
- (B) 周辺住民などに新堀川の認知度を上げるため、看板やポスターなどの掲示をし、愛着心を育み、実験参加を呼びかける
- (C) 水耕栽培の範囲を拡大し癒しの空間を創り出し。ゴミの投棄減少に役だてる
- (D) 小魚観察などの観察を通じて、子供たち向けにイベントの実施をする川に対する愛着心を育てる
- (E) 事業に関する報告書の提出および成果報告会（大東市主催）での発表

### 計画時の期待する効果

- 1 従来の垂直方向の炭の設置に対して、水平方向への沈めることにより、太陽光の作用で、炭素同化作用を期待する。
- 2 スポンジを使った納豆菌付着方式により、作業時間の短縮、炭の吸着力の向上を期待する。
- 3 従来の実験成果を生かして、新規装置の設置『谷中付近』を進め、地域住民への関心をもってもらいたく。

### 結 果

(A) どんな内容だったか？集客数は？計画時の期待する効果と照らしてどうだったか？

炭交換の準備作業が、従来10名で3～4時間要していたが、7名で2.5時間程度に短縮できた。より簡単になり、完成に近づく。

(B) 川の傍に掲示板を新設、谷川住民へのアンケートを通じて親交を深めことができ、生活ゴミの不法投棄の実態調査なども進めて改善につなげた。

(C) 他地区との技術者の交流なども進め、装置の改善なども協力を進め、親交を深めた。

(D) 今年度は、台風接近や秋の長雨などの異常気象で、計画断念をする必要な項目が多くでき、谷中付近の新規実験装置設置なども規模縮小をした。

# 竹炭を使った水質浄化

## 植菌の簡素化



# ミニ浄化材の製作

## 活動から生まれた副産物

- 家庭水槽の浄化（テスト確認中）
- 脱臭効果も確認（自宅シューズボックスで効果確認済み）



# 竹炭を使った水質浄化 炭の設置を水平に

- 従来は炭を縦方向に設置
- 水面から川底まで配置



- 水平方向に設置
- 広い水面に配置



# 植物を使った水質浄化

- 浮島の改善

- 育苗箱でまとめて移植



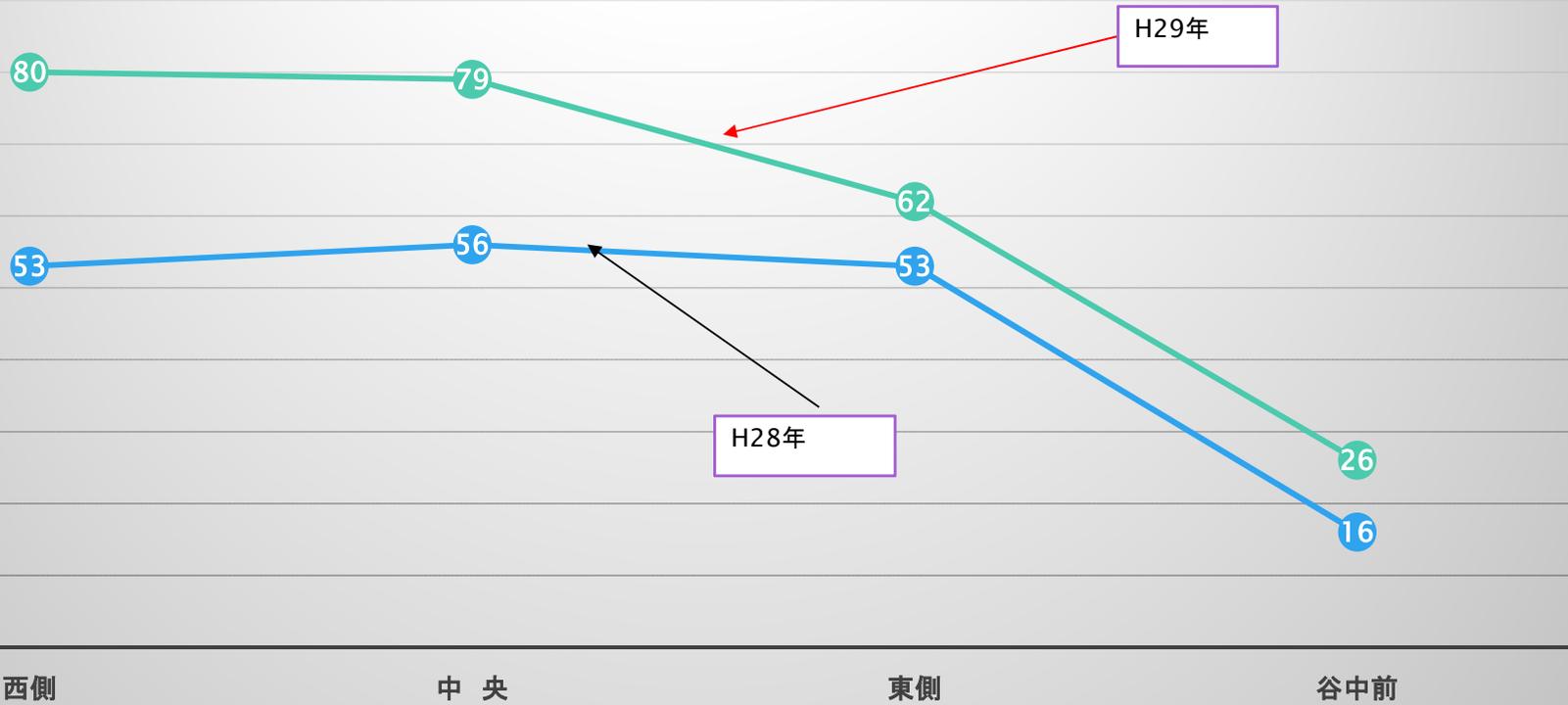
## 耐久性のテスト



# 水質測定結果



透視度の推移(単位:cm)



西側

中央

東側

谷中前

## まとめ

- 1、上流部への拠点づくりは、課題が多く再考が必要。
- 2、台風接近、長雨などで計画が大幅遅れが出た。
- 3、地域住民へのアプローチができた。
- 4、住民の中には川への愛着が深く感じる事ができた。
- 5、他地区との交流の中で、人材の交流が深まり  
今後の交流の発展ができた。